

食料・農業・農村政策審議会畜産部会地方公聴会・現地調査の報告  
(九州地区)

平成26年9月18日から19日にかけて、熊本県下において、畜産部会の地方公聴会及び現地調査を実施。

【地方公聴会：9月18日（木）】

農業者、関係団体等59名が参加

(参加者からの主な意見)

- 生産基盤について
  - ・ 離農が止まらないのはなぜか、後継者ができないのはなぜか、国でも検証してほしい。
  - ・ もと牛が減っているので、繁殖経営を支援してもらえれば、肥育農家も助かる。
- 融資制度について
  - ・ 融資を求めても、中小規模の農家は融資を受けにくいという現状がある。
  - ・ 地方銀行で融資を受けようとしているが、前例がないということで手続きが滞っている。融資制度を簡素化して、借りやすくしてほしい。
- 飼料について
  - ・ 水田活用交付金の助成単価が飼料用米に手厚くなったが、酪農家としては、稲WCSの生産を続けて欲しい。
  - ・ 飼料用米作付け圃場の団地化が進むよう、行政としても指導してほしい。
- 家畜改良について
  - ・ おいしさを求める改良だけでなく、繁殖成績に着目した家畜改良もすべき。
- 酪農に関する制度について
  - ・ 需要にあった生乳供給のためには、九州ブロック1本に集約化された指定団体制度がいいことなのか疑問。
  - ・ 成長戦略の議論の中で検討された規制緩和（生乳の自己処理量の上限拡大など）には、一部の人しか恩恵を受けられないものがあり、全ての農家に光が当たるような施策をお願いしたい。

(委員からの主な質問)

那須委員：飼料用稲は今後も作付拡大が期待できるが、耕種農家の管理が悪い場合もあり、収量等にばらつきがある。どのような指導をしているのか。

→管理が悪い場合は交付金を減額するなど、厳しく管理している。

農協、役場、集落代表の3者で現地確認をして、作付状況を判断している。

市川委員：高齢な繁殖農家へどのような支援が必要と考えるか。キャトルブリーディングステーション(CBS)は有用と聞くが、実情はどうか。

→(若手の多い)大規模農家と(高齢者の多い)小規模農家への支援はそれぞれ必要。高齢な繁殖農家に対して、産次数を増やした場合に助成するといった支援ができないか。

CBSを利用すると、手間は省ける一方、子牛の強い弱いで生育に差が出たり、病気が入りやすいこともある。

【現地調査：9月18日（木）、19日（金）】

● 吉良牧場（菊池市）

- ・ 乳用種150頭、交雑種180頭（平成26年2月時点）を飼養する肉用牛肥育経営。最近は、乳用種を減らして交雑種を増頭。
- ・ 乳用種は飼料用米8%混合の配合飼料を給与し、JA菊池独自ブランド「えこめ牛」として販売。肉は、味が良く、柔らかいと好評を得ており、他の乳用種より高い販売価格となっているが、輸入牛肉との競合等により厳しい状況。
- ・ ご子息が後継予定であり、もと畜価格が上昇する中、繁殖・肥育一貫への経営転換及び規模拡大を検討中。



（飼料用米混合の配合飼料）

● 那須牧場（菊池郡菊陽町）

- ・ 褐毛和種繁殖雌牛10頭、育成牛4頭、肥育牛8頭、黒毛和種繁殖雌牛25頭、育成牛16頭、肥育牛36頭（平成26年2月時点）を飼養する肉用牛繁殖・肥育一貫経営。妊娠牛は阿蘇草原へ放牧。
- ・ 褐毛和種は、性格が穏やかで飼養しやすく、肉は美味しいと、近年注目されている存在。
- ・ 直売所「うちのあか牛てっぽこ」による自家産牛肉の直売にも取組中。



（直売所「うちのあか牛てっぽこ」）

● 阿部牧場（阿蘇市）

- ・ 経産牛210頭（うち搾乳牛190頭）、育成牛120頭（平成26年7月時点）を飼養する酪農経営。他に黒毛和牛繁殖雌牛20頭を飼養。
- ・ 1頭当たり乳量は9,700kg、平成25年年間出荷量は189万kg。
- ・ 中古牛舎の利用や自家施工により、経費削減に努力。
- ・ 粗飼料は100%自給しており、稲WCSは栄養価の一番高い穂ばらみの時期に刈り取りをして利用。
- ・ ミルクプラントを設置して自社ブランド「ASO MILK」の牛乳等を日量0.8t程度販売。また、ブランド力を活かして食品加工の原料乳として有利販売。



（稲WCS）

（道の駅での直売）

● 池ノ窪牧野（阿蘇郡南阿蘇村）

- ・ 136haの牧野を、入会権者のうち有畜農家32戸で、褐毛和種中心に200頭程度放牧利用。
- ・ 放牧は4～12月の夏山冬里方式で、放牧と1年1産の実践により、低コストで効率的な生産を実現。
- ・ 常勤の監視員を雇用し、繁殖適期や事故の見落としを防止。



● 安武牧場（菊池市）

- ・ 黒毛和種300頭、交雑種420頭、その他和牛100頭（平成26年2月時点）を飼養する肉用牛肥育経営。その他に繁殖雌牛25頭飼養。
- ・ 繁殖部門の導入に伴い、周辺酪農家が組織するコントラクターに飼料生産の委託を開始。
- ・ 黒毛和種、交雑種ともに系統出荷し、それぞれ熊本県銘柄牛「和王」、「味彩牛」として販売。



● 児嶋畜産（菊池郡大津町）

- ・ 黒毛和種繁殖雌牛125頭、肥育牛155頭（平成26年8月時点）を飼養する肉用牛繁殖・肥育一貫経営。将来的に、繁殖雌牛150頭規模まで拡大する意向。
- ・ 子牛は生後3～7日で子牛の早期離乳を実施し、母牛の繁殖効率を向上。哺乳ロボットを2台整備し、子牛10頭で1台と少頭数で利用。
- ・ 粗飼料は90%自給しており、イタリアンライグラス12ha、稲WCS10haの他、地元の麦わらを活用。



（個体識別タグを首につけた子牛）

（哺乳ロボット）